

社会の授業で「税金」について学び、自分の身近でどんな税金があるか考えてみました。自分は難病指定である「クローン病」に患っています。毎日飲まなければいけない薬や栄養剤、二ヶ月に一回の検査と点滴があり、毎日の食事では脂質を二十グラムに抑えなければなりません。この病気は去年のゴールデンウィーク明けに突然始まりしました。初めは腹痛から始まり病院で薬をもらっていても二ヶ月間効かず、体調は徐々に悪くなっていきました。最終的には血便が出て高熱が出て、食事が取れなくなりました。それから大きな病院に入院し、治療が始まりました。この治療には多額な医療費がかかると知り、治療を続けることに不安を感じました。でも自分の治療には、「小児慢性特定医療費」というのが使えるそうです。これは税金が治療費の一部を助成しているそうです。これを利用することで両親が自分の治療を続けるための、金銭面的負担を減らすことができ、とても助かっています。税金はこんなところでも使われていました。自分が知っていた税金は、消費税や所得税や市民税くらいしか思いあたりませんでした。医療にも使われていることを知りました。

授業では、税金で住み良い社会、より多くの人たちが幸福に暮らせる社会を築くためのものであることと教わりました。それを聞いてもその時はピンときませんでした。なんで多くお金を取られなきゃいけないのだからにしか思いませんでした。でも自分が病気になってその考えは間違いだったことに気づきました。税金の制度がなければ、自分は今も痛みと苦しみが続いてたと思います。病気が考え方を変える良いきっかけになりました。

このことをきっかけに、将来の夢を管理栄養士とパーソナルトレーナーになりたいという夢をもつことができました。この夢を叶えるためには、まず自分の病気に向き合い、根気よく治療を受けていくことだと思っています。この治療には多くの人からの税金で支えられているので、一日一日を無駄にせずがんばって生きていこうと思います。夢を叶えたら自分もできるかぎり税金を納めて自分もたくさんの人を支えたいと思います。また、自分が親になったら自分の子供に、税金はどのように使われて、どんな人の助けになっているか、わかりやすく話してあげたいと思います。また税金について多くの人が感心をもつために、今よりわかりやすく、身近に感じられるような制度になるといいなと思います。それには自分が税金の行き先、使われ方、誰がそれを受けることができるのかを学び、自分から周りに発信していきたいと考えています。まだまだ学ばなければと、あらためて感じました。このことを忘れないように、努力していきたいと思っています。